

# 整形外科専門医研修プログラム (静岡赤十字病院)

## 1 はじめに

静岡は東京と都を結ぶ東海道の交通の要所として発展してきました。徳川家康が当地を終の住処として選んだのは、そのような地の利のみならず、幼少期を過ごした当地の温暖な気候と人心を大切にしていたからではないでしょうか。本プログラムを手にとっていた研修医の皆さんも、そのような歴史と風土をもつ静岡という土地に純粋に興味をもっていただき、ここで暮らしたいと思っている方たちなのでしょう。



医療に関して言えば、静岡には東京から、そして中京・阪神地区から、東西の大学の出身者が集まって群雄割拠しています。しかし戦っているというのは当たらず、お互いに認め合って切磋琢磨しているというのが現実です。医学教育はいまだに徒弟制度の面があり、大学の数、いや医者数だけ治療法があります。そのような環境下で我々は互いを拒絶するのではなく、それぞれの長所を認め吸収し、自分オリジナルの整形外科を作り上げています。我々は本プログラムを専攻していただいた研修医の皆さんは、県内に居ながらにして、いろいろな考え方に触れることができるのが最大のメリットだと考えています。そしてもう一つの特徴は本プログラムに参加している施設のどの医師も、静岡を愛し、静岡の人々の健康に尽くしたいと願っていることであり、可能ならば皆さんに我々の後を担っていただきたいと思っています。

さて本プログラムを主催する静岡赤十字病院整形外科の最大の特徴は静岡中部地区の診療所のみならず、総合病院の先生からも、またときには関東、中部からも紹介をいただく有数の施設であるということに尽きると思います。つまり専門家が治療に困ったときに頼る、地域の最終ラインと認識していただいています。整形外科専門研修プログラムにおいて必要とされる症例数は、年間新規患者数が500人、年間手術症例数が40例と定められています。本専門研修プログラムは、本施設の年間新規患者数は4033例、年間手術件数は1496例とその数を大幅に超えています。このように豊富な症例を有しているため、必要経験数を大きく上回る研修が可能です。もちろん、その他の連携施設の外科医のキャリアにとって最も大切な時期は医師免許をとってから数年です。その期間に可能な限り多く執刀すること、整形外科は骨接ぎ医者ではなく全身管理を前提とした運動器の健康管理人であると自覚できるようになるまで厳しい症例に接する機会を経験することが最も重要です。また外傷ばかりでなく慢性疾患、とくに脊椎脊髄病の治療経験を多く持つことはみなさんの将来のスペシャリティ、進路に関わらず重要です。その厳しい訓練を経た結果、自信を漲らせて当院を巣立っていくことができるのです。

当院のモットーは、「心のある、優れた臨床医であり、同時に科学する目をもつ医師を育てる」ことです。日常臨床ができるようにすることは当たり前、日々進歩する医療に対してその真贋を見抜く科学的な目を備え、生涯にわたって常に最先端であり患者さんに慕われ、信頼される医師を育てます。本プログラムの指導医はみな自分の得意分野に対してプロフェッショナルとしての矜持をもってしています。その奥義を余すところなくお伝えするつもりです。

プログラム統括責任者 静岡赤十字病院 整形外科部長 小川 潤

## 2 目的

整形外科専門医には、国民に質の高い運動器医療を提供することが求められています。整形外科専門医制度は、医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念とします。

整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の修得に日々邁進し、運動器に関わる疾患の病態を正しく把握し、実践できる医師でなければなりません。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があり、さらに、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。

この研修目標を達成するために静岡赤十字病院の教育環境を整形外科専攻医の皆様に提供し、個々の能力を最大限に引き出します。

## 3 研修病院群

### (1) 専門研修基幹施設

静岡赤十字病院

### (2) 専門研修連携施設

慶應義塾大学病院、静岡市立静岡病院、静岡市立清水病院、  
浜松医科大学附属病院、浜松赤十字病院、藤田保健衛生大学（順不同）

## 4 専攻医受入数

3名

## 5 研修期間

4年

## 6 研修計画（例）

本プログラムは専門研修基幹施設である静岡赤十字病院と、各専門研修連携施設とで施行され、それにより整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」にあるすべての分野を研修することができます。それぞれの特徴を生かした整形外科研修により、日本整形外科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験することが可能です。1年目は本プログラムの基幹病院である静岡赤十字病院で、整形外科の基本的な知識、技量を習得します。本院で、脊椎、人工関節、腫瘍、上肢、下肢とほとんどの領域を学ぶことが可能です。

また、地域の中核総合病院であることより整形外科単独病院では対処不能な合併症をもった症例、診断が困難で他科との連携が必要不可欠である症例等、集学的治療が必要な整形外科疾患を学ぶことができます。2年目から3年目は、静岡県内の地域に密着した地域型病院で整形外科の保存療法、術後リハビリ等の研修を経験することができます。

最終学年で研修する慶應義塾大学病院は都市型の基幹病院に相当する研修が受けられ、各分野での最先端の治療、世界最先端の基礎研究を経験することができます。慶應のプログラムで学んでいる専攻医と共に研修を受けるため、各々が学んだ知識経験を客観的に評価することができると共に、多くの若手医師、ベテラン医師とコミュニケーションをとることで、整形外科医としての立ち位置を再考できると考えます。一方、地域型の基幹病院である浜松医科大学、藤田保健衛生大学でも各大学病院で学んでいる専攻医とともに研修を受け、同様に各々が学んだ知識経験を客観的に評価することができると共に、多くの若手医師、ベテラン医師とコミュニケーションをとることで、整形外科医としての立ち位置を再考できると考えます。

## 7 問い合わせ先

〒420-0853

静岡県静岡市葵区追手町8番2号

静岡赤十字病院

総務課 労務係 森裕香

電話番号：054-254-4311

Mail : kensyu@shizuoka-med.jrc.or.jp